



旬の風 195号 (2018年7月)

給食作りの朝の仕事に名札のチェックがあります。「～さんお休みです。～さんいます。」とアレルギーや特別食の人の出欠を皆で確認します。「～さん今日もお休みです。」と数日休みが続くと、皆で「どうしたのかね。風邪でも引いたのかねえ。」と心配します。毎日名前を呼んでいると、直接会話をしなくても、身近な存在になっていると感じます。

配膳をしていると、ニコニコとこっちを見てくれる方。こんにちは！と元気に挨拶をしてくれる方。また、たまに話しかけてくれる方と暫く会わないときは、何だかさみしく感じます。給食が終わると「ごちそうさまでした！」と大きな声で元気にメニューを返しに来てくれる利用者さん。(PS最近、～が美味しかったです！の声を暫く聞いていないのでまた聞きたいです。)皆さんの声と笑顔に元気をもらいます。

毎日の給食が、さくら草の皆さんの健康の源であればと願い、野菜たっぷりの手作り給食に日々励んでいます。

自己満足ですが、これが私のやりがいとなっています。

(尚子)

メニュー担当者からの一言

7月、梅雨たけなわでしょうか

私の故郷 京都では、梅雨といえば毎日暑くてジメジメしている嫌な季節でしたが、関東に住むようになって「梅雨寒」という言葉があり外は雨でも室内は長そでが必要な日があることを知りました。

また、食中毒の季節でもあり、手洗い、食品の取り扱い、調理器具の管理等いつも以上に気を付けて調理しなければと気を引き締める季節でもあります。

今月のメニューは作者の好みと年代が反映して、カレー粉、胡麻、味噌を使った和風が多くなりました (ちえ)